

美容電気脱毛における滅菌・消毒について

美容脱毛エステティシャン認定委員会

実技試験での注意点

・ツィーザーは滅菌済のものをお持ち下さい。

ツィーザーを試験会場に持参する時に、ビニール袋・紙や布に包んで持ってくるなど滅菌器具の正しい取り扱いをしていない場合は減点の対象となります。試験会場に持参するときはツィーザーを入れて一緒に滅菌できる金属製の容器か滅菌バック等滅菌状態を保てる方法で持ってきて下さい。

ツィーザーを忘れた方(滅菌をしていない方)は当日ツィーザーを購入して頂きますが、数に限りがありますのでご注意ください。

減点の対象とならないように下記の滅菌・消毒についてよく読んでから試験にのぞんでください。

1. 滅菌と消毒の意味と方法

滅菌とは対象物に存在するすべての微生物を殺滅または除去すること

方法：オートクレーブ（高圧蒸気滅菌）、ドライヒート（乾熱滅菌）、ガス滅菌など

消毒とは対象物に存在する病原微生物を殺滅するか除去して感染が起こらないようにすること

方法：消毒剤、煮沸消毒、紫外線消毒など

2. 美容電気脱毛における滅菌・消毒の必要性

顧客から顧客、技術者から顧客、顧客から技術者へと病気の感染を防ぐため、そして顧客が脱毛施術による細菌感染を起こすことのないよう、すべての顧客に対して次の感染予防手段を確実に実行しましょう。

<滅菌・消毒の実際>

1) 皮膚の消毒

皮膚には常在微生物など多くの微生物が付着しています。特に脱毛後の毛包は雑菌が侵入しやすいなど、脱毛後の皮膚は細菌感染を起こしやすくなっています。脱毛施術による細菌感染を防止するため、施術前後には必ず施術部位を消毒しましょう。また技術者の手、腕など施術部位に触れる可能性のあるところも消毒を行う必要があります。

消毒剤には消毒用エタノールやヒビテン（グルコン酸クロルヘキシジン）がよく使われています。施術前の消毒には速乾性のある消毒用エタノール、施術後にはしみることの少ないヒビテンが勧められますが、それぞれ人によってはかぶれることもありますのでその場合はどちらか一方あるいは他の消毒剤を使用します。

2) 機器、備品類の消毒

せっかく技術者が手を洗い、手指の消毒を行っても、施術中に触れるところを消毒しておかなければ何もなりません。例えば、脱毛器のスイッチ、ダイヤル類、グローブホルダー、プローブホルダースタンド、ライトのスイッチやかさの部分、消毒綿の容器のフタなど触る可能性のあるところはすべて消毒しましょう。施術中に消毒していない部分に触れた場合は、もう一度手指の消毒を行わなければなりません。

3) 器具の滅菌

顧客の細菌感染防止のため毛包に挿入するプローブは滅菌でなければなりません。滅菌の確実性、利便性の意味からも滅菌済の使い捨てプローブの使用をお勧めします。

施術中に顧客の皮膚にふれる可能性のあるツイーザーも滅菌のものを使わなければなりません。ツイーザーは先端が鋭利なため誤って顧客の皮膚を傷つけてしまう可能性もあるので、プローブとツイーザーは必ず滅菌したものを使用します。

ツイーザーの滅菌にはオートクレーブが簡便で推奨されます。ただし、滅菌する前にツイーザーに付着した有機物やその他残留物質をよく洗浄して取り除くことを忘れないようにしてください。

3. 滅菌した器具の取り扱い

滅菌したのものには生きた微生物が全く存在しない完璧な状態なので、滅菌したもの以外に触れた場合、その瞬間からそれはもう滅菌状態ではなくなります。消毒したものでも滅菌ではありませんので同じことです。たとえば、滅菌したプローブやツイーザーの先端部を消毒した手で触れる、ワゴンやシート、ティッシュペーパーの上にツイーザーを直接置く、滅菌トレイに消毒綿を乗せるなどをすると滅菌した意味がなくなってしまうので、滅菌済みのトレイの中に置いてもいいものは滅菌済みのプローブとツイーザーのみとなります。

滅菌済みのトレイを滅菌バッグから出すときもトレイの内側には手を触れないように注意してください。トレイの外側は、ワゴンの上に置いたり、手で持って移動したりと滅菌ではなくなるので出す時に手で触れても構いません。

滅菌したものを扱うときには、どこからどこまでが滅菌されているのか、どこから触っていいのか、清潔、不潔の概念を正しく持って注意して扱きましょう。

以上